平成２２年度　自己評価実践報告書

福島県立双葉高等学校

１　自己評価の概要

（１）「学校経営・運営ビジョン」ついて

平成１８年度に「双高ビジョン２１世紀プロジェクト委員会」を立ち上げ、地域の中学校の生徒や保護者等にアンケートを実施し、平成１９年度にその結果を分析して提言されたことについて検討した。そのことを踏まえて年度当初に重点実践目標を定めるとともに、それらを達成するための具体的目標について、各部・学年において前年度の反省を生かしながら策定した。

（２）自己評価年間計画ついて

３～４月	「学校経営・運営ビジョン」の策定 保護者等へ公表（ＰＴＡ総会・ホームページ）
４～９月	実践
９月	中間評価・保護者等へ公表（文書配付・ホームページ）
１０～２月	実践
２月	年度末評価・保護者等へ公表（文書配付・ホームページ）

２　評価結果の概要

（１）　実施方法等

学校経営・運営ビジョンにおける重点実践目標Ｎｏ.	重点実践目標に対応する具体的目標の実践・評価部署								
	教務部	生徒指導部	進路指導部	保健部	図書部	１学年	２学年	３学年	その他
1		①		①		①	①	①	
2	③		③			②	②	②	
3		①		②	③			①	
4									①

※　○の中の数字は評価項目数。重点実践目標および具体的目標については、「学校経営・運営ビジョン」参照

（２）アンケート及び回答数

対　象		中間評価のためのアンケート（７月実施）			年度末評価のためのアンケート（１２月実施）		
		対象数	回答数	割　合	対象数	回答数	割　合
教　職　員		３７	３５	94.6 %	３７	３３	89.2 %
教職員以外	生　徒	４６９	４４３	94.5 %	４６８	４５９	98.1 %
	保　護　者	４６９	３０５	65.0 %	４６８	２９６	63.2 %

（３）評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	達成できた	やや達成できた	あまり達成できなかった	達成できなかった

３　年度末評価のまとめ

（１）年度末評価実施の目的、意図

教職員・生徒・保護者によるアンケート等により、重点実践目標がどの程度達成されているか、課題や改善点は何かを把握し、次年度の教育活動に反映させるために自己評価を実施した。

（２）アンケート結果の分析（別紙「学校評価のためのアンケート結果」参照）

○「そう思う」と「だいたいそう思う」割合の合計が高いアンケート項目

※（　）はアンケート項目の番号

	教　職　員	生　　徒	保　護　者
１　位	（３,４,５）　97.0 ％	（４）　90.7 ％	（４）　90.8 ％
２　位		（８）　89.2 ％	（１）　90.3 ％
３　位		（１）　87.1 ％	(10)　89.8 ％

教職員、生徒、保護者によるアンケート結果において、評価が高かった内容は次のとおりであり、今後も継続して取り組んでいきたい。

① 進路希望実現へ向けた積極的な支援
② 進路希望に対応した教育課程
③ 心身の健康に関する自己管理、充実した学校生活

○「そう思わない」と「あまりそう思わない」割合の合計が高いアンケート項目

※（　）はアンケート項目の番号

	教　職　員	生　　徒	保　護　者
１　位	（９）　21.3 ％	（９）　57.3 ％	（７）　49.2 ％
２　位	（７）　18.2 ％	（７）　47.5 ％	（９）　48.8 ％
３　位	（６）　12.1 ％	（６）　34.5 ％	（６）　31.3 ％

教職員、生徒、保護者からのアンケート結果から、次の３点についてこれまで以上に指導していく必要があると判断される。

① 読書に親しむ習慣や図書館の有効活用
② 家庭学習の習慣化
③ 開かれた学校づくり

（３）達成状況、及び次年度へ向けての課題・改善点等

○ 礼儀を重んじた自律的な生活態度の育成【重点実践目標Ｎｏ．１】

評　　価	A	B	C	D
評価部署による評価数	1	4		

職員室等への入室時にしっかりした服装やＴＰＯを指導し、あいさつについては外部の人からも高い評価をいただいているが、全員がしっかりできるように更に促していく。また、携帯電話の校内での使用規程を守れない生徒が見られるので徹底させていく。１年生は現在までの皆勤者数が６７人と目標を若干上回っており、今後減少しないようがんばらせたい。２年生は１年次に比べ、生活に落ち着きが見られるようになり、特に、修学旅行以降は精神的にも成長したように感じられる。３年生は、朝の学年合同ＳＨＲを必要に応じて火曜日に実施し、学年の意思や決意を生徒全体に一斉に伝えることにより、ブレのない生活指導、学習指導及び進路指導の徹底に効果があった。

生徒・教員数の減少のため清掃区域配当が難しいが、当該区域を使用する学年に配当できるよう工夫していくとともに、長期休業中の清掃を部活動生徒に依頼するなどして、毎日の美化活動に努めていく。

○ 学力の向上と進路指導の充実【重点実践目標Ｎｏ．２】

評　　価	A	B	C	D
評価部署による評価数	3	6	3	

自習時間数が前年度よりは若干増加したが、一昨年度末比５０％減少しており、引き続きこの水準を維持していく。各学年とも学習や生活の記録の提出や、週末課題・朝の小テストを実施して家庭学習の習慣化を図っているが、３年生は目標の週２０時間以上学習している者も多い一方、進路決定者については少なく、全学年とも目標を達成している生徒はまだまだ少ない。家庭での予習復習が授業につながることを理解させるとともに、生徒の能力や進路に応じてきめ細かい課題を出すなどして課題の提出率を上げる工夫が必要である。今年度から全学年が平常課外を実施しており、出席状況も良いので今後に期待したい。

進路だよりを発行して全校生徒・保護者への進路情報の発信に努めるとともに、年２回の面接月間には授業を短縮して時間を確保し個別面談を充実させ、夏休みには三者面談を実施した。１年生は計画された面接期間以外にも必要に応じて面談を実施し、進路に最適なコースを選択させることができた。２年生は昼休みや放課後を利用して年間４～５回の面談指導を実施し生徒理解に役立てたが、小文化祭や修学旅行の準備以外にも行事が多く、ＬＨＲで進路指導の時間が十分にとれていない。３年生は年度初め（４～５月）に進路先決定に向けて個別面談を実施するとともに、９月に全体での学力分析会を実施して、国公立大や私大受験に向けた学力向上に役立てた。今年度は学級減を考慮してもセンター試験受験者が少なかかった中、国公立大の推薦入試では難関大へ２名合格するなど健闘した。

新学習指導要領については、２４年度入学生の大枠が完成し、２５年度入学生については、コース分けも含めて検討を進めていく。

○ 豊かな人間性の育成【重点実践目標Ｎｏ．３】

評　　価	A	B	C	D
評価部署による評価数	3	3	1	

小文化祭やＨＲ球技大会等を通して、級友との親交を深め、協力関係が築かれた。図書館の広報紙を年６回発行し、図書情報の発信及び読書意欲の喚起に努めた結果、貸出冊数が前年度比２２％増加し、一人当たりの貸出冊数は5.2冊と、少人数ではあるが個々の定着は図られており、読書記録の活用を推進して更に学校全体の定着化を図っていく。

各種健診の受診率は１００％、虫歯未処置者の割合は担任や部顧問等の協力により24.9%→14.1%と昨年度より減少した。（昨年度23.1%→14.6%）月１回のスクールカウンセラーによる健康相談を有効に活用することにより、生徒の精神的なケアが充実するとともに、保護者からの希望があった際も対応して好評であった。５月と１１月に被害調査を実施した結果、「いじめ」に関わる問題はみられなかったが、引き続き、ＨＲ活動等を通して指導していく。

○ 開かれた学校づくりの推進【重点実践目標Ｎｏ．４】

評　　価	A	B	C	D
評価部署による評価数		1		

今年度、情報発信が組織的・継続的に行われるように改善するためホームページ委員会を改編して学校公開推進委員会とし、ホームページの更新や学校だよりの発行に加えて、新たにマスコミへの取材依頼や部活動の活躍の駅前掲示などを実施して情報発信に努めた。